

原発事故後の 現存被ばく状況での保健師の役割

現存被ばく状況とは
放射線と付き合いをざるを得ない
状況のこと(ICRP Pub.111)

保健師に何ができるか？

保健師の特性を生かした活動
あなたにできること

また保健師に押しつけるの？

健康危機管理業務が負担になっている
地域の問題であっても
何でもできる訳ではない
保健師も疲弊させないアプローチ

相談例

- 社会の中でのしがらみで母親自身が納得できる判断ができていないと感じている
- 保健師はどう対応すべきか？

保健師の役割

- 一人ひとりの健康問題を地域社会と切り離さずにとらえ、対象地区の伝統や風土(地理的条件・歴史的条件・文化社会的条件など)と個々の生活意識や行動を結びつけて理解し、個人はもちろん、環境や周囲に働きかけ、ひいては健康の格差を縮めながら地域全体の健康水準の向上をもたらしていく活動
- しがらみが生じた地域社会
- 母親個人
- との双方に目を向け、双方に働きかけて「地域全体の健康水準の向上」を目指す

避難すべきかどうか？

ジレンマがストレス

ジレンマを軽減する

残るとしても
避難するとしても

地域全体の健康水準の向上 状況改善の具体策は？

- 放射線リスクを心配する首都圏のボランティアグループが被災地を支援したいと希望
- 行政には批判的なので、役所との関係が上手く築けない
 - 放射線リスクをより心配していることもある
- このようなグループの貢献を求める余地はあるか？

何かアイデアはありますか？

福島市と伊達市は
除染ボランティア募集を一時停止

ボランティアは 何がしたいのか？

ボランティアと除染作業労働者の
同じところと
違うところは？

地域で困っていることは？

ニーズは表出されていますか？

ボランティア側のニーズと

マッチする？

将来予測

何が問題となりそうですか？
どのような未来を望みますか？

保健師の特徴

- 地域の中での問題把握
- 地域の中での問題解決法の引き出しを持っている
- 行政機関内での機能

未来に向けて目指す方向は？

- 被災地のことをリアルに感じられるサポーターを増やす
 - 体を動かす・考えるなどの支援を得る
 - 被災地への誤解を解く
 - 被災地支援活動のイメージの向上
- 行政機関の施策を効果的に展開するには？
 - ゼネコンによる除染への満足度を上げるには？
 - ゼネコン別の手法の違い

活動例の紹介

模索されている
福島県内での子育て支援

被災地域での
放射線リスクコミュニケーションに
関するメディエーターと
保健師の協同作業の試み

被災地以外の保健師？

福島県から避難した

家族の子供は健康？

避難された方のニーズは？

保健師活動の悩み？

<http://www.niph.go.jp/>

放射線関係の素朴な疑問？

<http://trustrad.sixcore.jp/>

大丈夫らしい、というのが説明を
伺っての全体を通じての印象。淡々
と考えれば、この地に住んで大丈夫
らしい。でも、大丈夫と言い切れな
い。大丈夫と言ってしまふことの恐ろ
しさ(覚悟?)を感じる。

そこでリスクコミュニケーションということになるのだろうし、地域の人々との話し合い……。最終的には個人が情報を得て、自分なりに把握して決めていく。(この地に住み続けるかどうか)ことになるのだらうと思う。

そのプロセスがこれからの課題だと
感じる。この点をもう少し、講義に入
れて欲しい

社会学的なアプローチが有用
社会学者を活用しよう

必ずしも専門職が行政で尊重されているわけではない

専門職が役割を
発揮できるためには？

数値による安全性を専門職としてど
う安心だと伝えるのか
その辺りのスキルの内容も欲しい

信頼関係構築が重要
相手が懸念するところを説明
できる対策を伝える

ゼネコンの除染への関与

- 住民側のニーズ掘り出し
 - 線量で優先順位を決めてよい？
 - その他の問題は？
- 家屋単位除染へのボランティアの関与は？
 - ボランティアを受け入れることの利点は？
 - ボランティアが活動中に市の職員が付き添う必要がある？

果樹園の除染

- できる工夫をして除染しようとしている
 - いずれプロジェクトが動きそう
- JAも支援
- しかし、作業する年齢層がやや高い